

ランチョンセミナー 「水環境分野で働く女性たち」報告

男女共同参画推進委員会 麻布大学 大河内 由美子

第51回年会では、初日の3月15日（水）の12時20分～13時30分の時間で、ランチョンセミナー「水環境分野で働く女性たち」をE会場において開催した。本セミナーは第48回年会から数えて通算4回目の実施であり、過去のセミナーから継続的に参加いただいている会員も散見された。今年は九州沖縄支部の協賛を得て、水環境に関連したさまざまな業界、業種でキャリアを積んだ女性技術者・研究者7名を話題提供者として迎え、学会員との交流・情報交換を行った。話題提供者の内訳は、民間企業3名、地公研・地方行政機関2名、国立研究機関1名、大学研究員1名であり、とくに地公研・地方行政機関からは、九州沖縄支部の推薦で熊本市と福岡県からご参加いただいた。一方、参加者は総計35名（オブザーバー参加1名を含む）であった。参加者の内訳を図1に示す。例年と同様、過半数が学会員（学部生6、修士課程院生9、博士後期課程院生4）であったが、社会人の割合が4割強と比較的高かった点が今年の特徴と言える。

初めに、男女共同参画推進委員会池本委員長からのセミナー開催挨拶と趣旨説明に続いて、同委員会大河内の進行で、話題提供者から自己紹介ならびに水環境分野で仕事を始めたきっかけ・動機や業務上の体験談、この分野の仕事の魅力が熱く語られた。参加者はグループに分かれて着席し、サンドイッチBOXランチをつまみながら熱心に耳を傾けていた（写真1）。また、女性技術者・研究者が未だ少ない職場で働いている中で起こったトラブル解消策について等、貴重な体験談も紹介いただいた。



図1 セミナー参加者の属性



写真1 セミナー会場の様子

その後、話題提供者が各テーブルに移動し、引き続きテーブルごとに自由に情報交換を行った。今回のセミナーでは参加者数が予定人数に若干届かなかったが、その分、密度の高い情報交換が可能になったと考える。懇談時は、社会人である話題提供者を学生会員が取り囲む形で、現在の職務内容と学生時代の研究内容との関係について質疑応答が進むテーブルがあった一方、社会人が学生会員一人を取り囲む形で進路のお悩み相談に応じるテーブルもあり、バラエティに富んだ様相を呈していた。

今回のセミナーでは、終了時にアンケートを実施し、会員がセミナー等で今後どのようなトピックを取り上げて欲しいと考えているかについてニーズを調べた。集計結果を図2に示す。参加者、話題提供者ともに希望の多かった項目は、「女性技術者・研究者のキャリアパスやロールモデルの紹介」「水環境分野の仕事内容・特色」であり、本委員会としては今後も若手会員に対して、多様なキャリアパスやロールモデルの提示を継続的に行っていく必要があるだろう。第51回年会において初開催となった団体会員説明会との相違の明確化を意識しつつ、新卒者就活支援にとどまらず、より幅広い年齢層に対する情報提供を心がけていきたい。

また、セミナー内容に対するアンケート項目に対しては、自由懇談時間はわずか30分弱と十分とは言えなかったものの、「ぶっちゃけた話は就職説明会等では聞きづらいため良かった」「より深い話が聞けて良かった」「交流する時間がちょっと短いと思った」等、とくに自由懇談に対する高い満足度の表れと考えられる声が多く寄せられた。

最後になりますが、年度末の業務ご多忙な中にも関わらず、話題提供者として積極的にご協力いただいた皆様、そして発表の合間を縫ってご参加いただいた会員の皆様に感謝申し上げます。

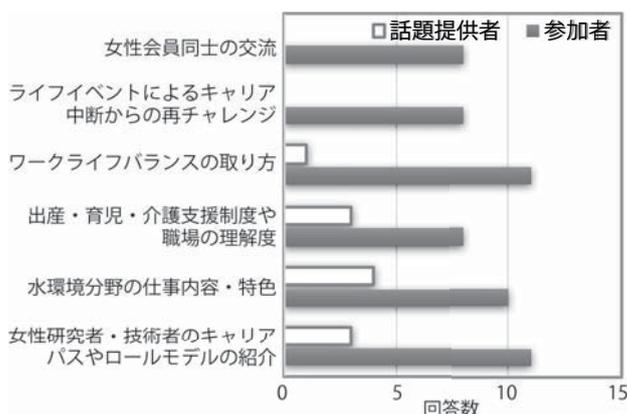


図2 今後取り上げて欲しいトピックに関する調査結果